

環境だより



清掃課 ☎57♦4100

地球温暖化は、専門家の予想を上回るスピードで進んでおり、このまま温暖化が進むと南太平洋の島々では、海面上昇により、国そのものが水没してなくなってしまうとも言われています。

この温暖化の一番の要因は、二酸化炭素の排出量の増加によるものです。最近ごみは、燃やすと高カロリーになるものが多く、焼却炉にも負担がかかります。

特に石油を原料とするプラスチックは、燃焼温度が高いので、二酸化炭素の排出量が増加し、地球温暖化が進みます。市では、これまでプラスチック製容器包装を全部焼却してきましたが、今年度の秋

プラスチック製容器包装の分別が始まります

頃から一部の地域で分別収集を開始することにしました。分別収集されたプラスチック製容器包装ごみは、選別・梱包のうえ、再生業者に引き取られ、資源化されます。そこで資源化されたごみは、その後、新しくプラスチック製品に生まれ変わったり、ガス化・油化により、新たなエネルギー源となったりします。

本来、市内全域でいつせいに分別収集を実施することが望ましいのですが、そのためには莫大な経費がかかります。このため、これから段階的に実施地区を増やしていきます、いずれは全地域で分別収集できるようにしていく予定です。

モデル地区として実施する市民の皆様には、今後説明会などを開催し、周知を図っていきますので、ご協力をよろしく願います。

この材質表示マークのものが基本的に対象になります。
(表示が無いものもあります)



水族館

学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68♦2059

竹島水族館には、大きな水槽よりも、「汽車窓式展示水槽」という、のぞきこんで生き物を一匹ずつ観察する形式の小さな水槽が多くあり、人気を集めています。

小さな水槽は、水量が何千トンもある大きな水槽のような迫力はありませんが、思いついたらすぐに「展示替え」ができるという、小回りの利くところが強みです。

実際に、竹島水族館では、小さな水槽の展示内容を頻繁に変えています。これは、初めての方はもちろん、2回目以降にきてくださるお客さんたちに喜んでもらえるように、担当飼育員が意図的に行っていることです。ときに

展示替え

は、担当者が思いついたその日のうちに、わずか数十分で展示内容を替えることもあります。「展示替え」は、お客さんにはもちろんのこと、飼育員にとっても新鮮なことです。計画から実際の作業、そしてお客さんやほかの職員の反応まで、とても楽しみにしていることなのです。

飼育職員は、それぞれ、「この水槽をもっとこうしたい」という熱意や野望を常に持っています。中には、「ほとんどの水槽を替えてみたい」と言う飼育員もいます。

しかし、竹島水族館には、誰一人として「展示替え」を提案しない水槽があります。それは、なんと、ウツボの水槽です。この水槽は、私の小さいときからずっとある水槽ですが、展示方法はとてごん新です。また、絵画的で、美術作品のようでもあります。ほかの水族館ではあまり例のない、皆が気に入っている展示方法の水槽のようです。ぜひ、皆さんも一度見に来てください。